

日本エネルギー学会設立記念講演会－東北の復興とこれからのエネルギー情勢

◆主催：日本エネルギー学会東北支部

◆協賛：石油学会，化学工学会東北支部，日本伝熱学会東北支部，日本鉄鋼協会東北支部，
省エネルギーセンター東北支部，火力原子力発電技術協会東北支部

日本エネルギー学会は，1922年に燃料協会としてスタートして2012年度で90周年となります。1991年に日本エネルギー学会へと改組して幅広いエネルギーを横断的に扱い，産官学が連携して課題を議論する場を提供してきております。2011年3月11日に発生した東日本大震災は日本のエネルギーの需給構造に大きな影響を与えることになり，我が国のエネルギー政策はもとより，世界のエネルギー需給構造にまで大きなインパクトを与えることになると思われます。これからのエネルギー問題を考える上では，エネルギー全体を幅広い見地でとらえ，省エネルギー，省CO2とセキュリティを両立できるエネルギーのベストミックスとベストソリューションに取り組むことが不可欠です。

こうしたおり，日本エネルギー学会に東北支部が設立されました。今後は地域レベルでエネルギーと環境を考えることも大変重要になる中，当会は東北支部を加えた4地方支部となり，各部会と合わせて活動を進めたいと思っております。この東北支部設立を記念して記念講演会を企画いたしました。

◆日時 平成23年11月8日(火)午後2時より

◆会場 秋田ビューホテル(秋田市中通2-6-1)

◆参加者数 90名



日本エネルギー学会の活動とエネルギー情勢について

日本エネルギー学会会長

・東京ガス(株)副社長 村木 茂 氏



東日本大震災後のエネルギー政策について

東北経済産業局長 豊國 浩治 氏



日本のエネルギー資源事情

秋田大学大学院教授 内田 隆 氏



東北電力による火力発電の変遷

東北支部副支部長・東北電力(株)

取締役火力原子力本部火力部長 佐久間 直勝 氏

2011年(平成23年)11月10日(木曜日)

言

言

系

局

工ネルギー学会東北支部
設立記念の講演会
日本エネルギー学会の東北支部が今年1月に設立されたのを記念し、講演会東北の復興とこれからのエネルギー情勢」が8日、秋田市内のホテルで開かれ、大学や電力、ガス業界の関係

者ら約100人が参加した。同学会は、産学官が連携し、最適なエネルギーシステムの構築に貢献することを目的としている。講演会では、支部長を務める東北大の大塚康夫名誉教授が「エネルギーや環境、資源に関する課題はグローバルな視点が重要だが、地域レベルで考えることがますます大切になる」などと設立の趣旨を説明。太平洋側の火力発電所が津波で被災した影響で、節電が求められた今夏の状態などを振り返り、「エネルギー新時代の到来で、支部活動も変化に対応していかなければならない」と話した。その後、豊国浩治・東北経済産業局長が、原発への依存度低減や、地域分散型のエネルギーシステムの構築など、政府の「エネルギー・環境会議」が示しているエネルギー戦略の基本理念を紹介。副支部長の佐久間直勝・東北電力取締役が被災状況を説明するなどした。